

令和5年度 岡山県立勝間田高等学校 学校評価書

校長 中西 崇 ⑨

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善策

1 学力向上

- ・基礎・基本の徹底
- ・専門知識・技術の習得
- ・ICT・学び合いによる学習活動の充実

学力向上のための家庭学習の推進については、学習時間0時間の生徒が4月の調査では58.3%、井学期末考査前の調査では41.1%、9月の調査では44.0%、2学期末考査前の調査では36.9%、1月の調査では43.0%となっており、通常30%、考査前20%の目標を達成することができなかった。1月に実施した基礎力診断テストでの調査で、普段の学習について、「学校で出された宿題は、できるだけやるようにしている」と回答した生徒が47.5%だったことから、家庭学習課題として課しないと学習しないと考えられる。基礎学力定着のためにも週末課題を課すなど、3教科を中心に検討していく必要がある。

観点別評価等、評価のあり方の検討については、年度当初に各教科で評価の割合などを決めた上で評価にあたったため、スムーズに評価することができた。

ユニバーサルデザインを意識した授業改善の取組は、年間を通じて授業づくりの指標とし、学校自己評価アンケートでの「分かりやすい授業が多い」という問いに対する生徒の回答は68.8%（前年比-1.2%）、「自分の系列の学習内容に興味があり、満足している」という問いに対する生徒の回答は、84.7%（前年比+7.8%）であった。引き続きさまざまな場面でユニバーサルデザインの意識付けを教職員にしていきたい。

ICT・学び合いによる学習活動の充実については、6月と11月に勝間田コミュニケーションウィークを実施し、ICTを活用した授業など、情報共有や授業改善に向けての意欲の向上を図ることができた。また、経験年数によるOJTチームを組み、チーム研修の中でICTを効果的に活用した授業についても取り上げ、課題配布やプレゼン発表、振り返りにおいての活用方法などについて共有し、活用につながっている。

2 生活習慣の確立

- ・ルールの遵守
- ・挨拶の励行
- ・自己管理の向上

生徒課を中心に学校全体で生活指導に取り組んでおり、生徒の生活態度は落ち着いてきている。近年の傾向としては暴力的または反社会的な事案は減少傾向にあるものの、交通マナーに関する外部からの苦情やSNSに関わるトラブルが多くみられた。今年度も講演会等啓発の取組を行ったが、引き続き継続していく必要がある。

生徒会、農業クラブがあいさつ運動を定期的に行ったり、生徒会が清掃時間に清掃に対する生徒の取組を改善するための試みをしたり、生徒会が年間3回にわたってスクールミーティングを行い、生徒自身が「入って良かったと言える学校」にするための取組を行ったりと、生徒が主体となって、より良い学校にするための取組を進めている。その成果もあり校内の環境は年々改善しており、ゴミの放置等が散見されるものの、基本的には整った環境が維持されている。

自己管理能力の向上については、健康管理に係る呼びかけが功を奏し、生徒に「自分事」の意識が芽生えてきつつある。「保健だより」を配布する際には、保健委員から説明した上で配布したり、健康観察の入力の徹底について生徒・教職員に呼びかけたり、入力状況について共有したりすることで、学校全体での「健康管理意識」が向上している。

3 進路実現

- ・キャリア教育の充実
- ・学校生活(部活動・資格取得等)の充実

1 年生は全員がクラスごとに分かれて、各クラス2社、勝央工業団地内の企業を見学する地元企業見学を実施することができた。

2 年生は、28 社を招いて開催した「ジョブフェア in 勝間田」に参加したり、企業ガイダンスに参加したりすることができた。また、各系列の関連産業や企業へのインターシップを希望者に対して実施することができた。その結果、各系列の関連産業への就職や、関連上級学校への進学への意識を高めることができた。

3 年生の就職一次内定率 72%と売り手市場の中では低調な結果となった。主な要因としては、本校においては、支援を必要な生徒が年々増えており、通常の就職が困難な生徒が増えていること、例年に比べて、就職に向けた履歴書の作成、面接練習等の動き出しが遅く、十分な準備をした上で試験に臨めなかったことの2点が考えられる。

1 点目に関する今後の対応については、早い段階から就労体験を重ねながら就職先を決定する等、就労先や就労までのプロセスについて就職アドバイザー、就労支援コーディネーター、SSWや関係機関等と連携を取り、検討していく必要がある。

2 点目に関する今後の対応については、担任、学年団、進路指導課等で、早い段階からの意識付け、働きかけを行い、計画的な指導を充実していく必要がある。

なお、3 月末の就職内定率については、担任進路指導課が生徒・保護者との面談や助言を積み重ね、100%（自己就職を除く）に到達することができた。

4 情報発信・広報

- ・教育活動の見える化
- ・勝央町との連携
- ・地域人材の活用
- ・SNSの活用

中学校卒業見込者の第一次進学希望状況調査（12 月 1 日現在）101 名、同二次調査（1 月 10 日現在）107 名、二次募集を含めた合格者は 110 名であり、現時点では昨年度の 109 名を超える人数の生徒が入学する予定である。学校、しょうおう志援協会、勝央町の三者協定に基づき、学校と地域が一体となって学校の広報を行って来た成果が実ってきている。

また、地域協働活動コーディネーターが多くの教育活動に参加し、収集した情報をホームページやSNSで発信することができた。インスタグラム等のSNSは、タイムリーに発信することができた。ホームページについては、これまでソフトウェアの関係で地域協働活動コーディネーターしか更新ができなかったため、タイムリーな更新が行われていない状態であったが、本年度中にソフトウェアを WordPress に換え、多くの教員が更新に携わることが可能な環境にすることができた。令和 6 年度は、校内での役割分担や更新までの流れを整理し、SNSとの関係性を整理することで、より効果的な情報発信をしていきたい。

2 学校運営協議会委員（評価者）＜※校長を除く＞

水嶋 淳治	勝央町 町長
神田 寿則	勝央町教育委員会 教育長
浦島 毅	勝央町立勝央中学校 校長

岡 誉久	勝英農業普及指導センター 所長
竹久 伸二	JA 晴れの国岡山勝央事務所 副所長
三ヶ田浩二	キャリア教育コーディネーター
石原 達也	岡山NPOセンター 代表理事
青山 千香	(株)ニッチ 営業部部長
野上 和宏	野上石油(株) 代表取締役社長 (勝央中学校学校運営協議会 委員)
本行 才泰	しょうおう志援協会 会長 (勝間田小学校学校運営協議会 委員)
佐乗 充倫	地域協働活動コーディネーター
安東 厚生	岡山県立勝間田高等学校 同窓会長
永禮 淳一	岡山県立勝間田高等学校 元PTA会長 (永禮ファーム 経営者)
角南 博文	岡山県立勝間田高等学校 PTA会長

3 学校関係者評価

第1回 令和5年 5月25日(木) 13:30~16:00

【主な内容】

- 委員紹介
- 学校運営協議会について(説明)
- 会長選出
- 本校の現状と課題(説明)
 - (1) 令和4年度の教育活動
 - (2) 令和4年度学校評価書
 - (2) 令和5年度学校経営計画等
 - (3) 令和5年度の主な行事について
- 質疑応答
- 意見交換

<委員からの意見等>

●昨年度の会で、中途退学する生徒が少なくなってほしいと要望したが、尽力をいただき結果が出ている。入学した生徒がそのまま卒業できるよう、今後もお願いしたい。

●学校の魅力をいかに発信するか、強みをどう太くしていくかが大きなキーになっていく。県の予算を取った事業計画をどう具体化し、それらが生徒や地域に何をもたらしていくのかを考えて行うことが重要である。勝央町やさまざまな機関と連携し、教育資源の活用をどのようにしていくのか、教職員がチームワークをとって実現していくことが重要である。

●成果が出ているが、まだやれることはたくさんある。広報では、普段の活動をただ発信するだけでなく、例えば、影響力のあるトレンドに乗っかるとか、一番真面目にやるとか、その中の一番になるとかなど、新しい切り口で今までと違う視点でやってみることもいいのでは。下準備はできているので、今後は攻めの姿勢で、ローカル番組に出るなどでできればよい。

●県北は少子化が進んでいるが、それでも子どもはいる。選べる学校があるとよい。勝間田高校は専門的な学びができる学校である。魅力を発信できるよう一緒に頑張りたい。

「伐木チャンピオンシップ」の大会が今年は鳥取県で行われる。コロナが終わって来場者が増加すると考えられる。生徒がその大会に参加するのだから、そこでのイベントで学校のPRをしてはどうか。こちら協力したい。

●そのような大会に毎年出場していることも、私を含めて地域の人は全然知らない。その出場こそが魅力であると考えられるので、伝えていくことの重要性を感じる。

高校在学中に先生から勧められて出場した「芋-1グランプリ」(奈義町)で優勝でき、そのことで大きく成長でき、卒業後も自信となったとの話を聞いた。そのような大会で優勝したことも知らなかった。

また、別の人からは、勝間田高校の先生は生徒一人一人に耳を傾け、生徒の目線に合わせ、きめ細かい対応をしてくれると聞いた。例えば、提出物が期日に出せないときの対応の仕方な

ど、「なぜ」かを伝えてやり方を指示している。それも魅力である。

私ができることといえば情報発信である。津山テレビが「え〜がん 勝央見つけ隊」という番組を4月から始めた。勝央町だけでなく津山市の人も多く見ている。勝間田高校も勝央町にある1校しかない高校なので、取り上げてもらえるよう話をしていければと思っているがどうか。人の魅力が町の魅力になると思う。

●生徒の通学の足でもあるJR姫新線の勝間田駅の駅舎がリニューアルした。ずっとJRとも協議をしてきたが、駅でのイベントを了承していただいた。今も生徒がプランターを置いたり木の剪定や草刈りをしたりと整備をしているので、駅のPRイベントと一緒に企画したい。

●露出をどれだけ増やしていけるかだと思う。セーブジャパンプロジェクトは継続していきたい。ほかには、山陽新聞社と連携してSDGs推進に取り組んでいる。SDGsはあと7年間で達成しないとイケない。森林を守る切り口で、森林・園芸系列でなにか取組をしていったらよいのではないかと。8月2・3日に行われる「おかやまSDGsフェア2023」は、学校は出展料無料なので、出展してPRしては。

勝間田高校は普通科では経験できない体験ができる。学びの質が違う。3年間で経験できたことを、これからにどう生かせるかを伝えていくことが重要だと思う。

●勝間田高校にはいろいろな系列があることに興味を持ってもらえれば。

JAでは、インターンシップの受け入れや、アグリ魅力化プロジェクト等に関わっているが、生徒は明るく素直で活気があると感じている。先生も、生徒一人一人に合わせて接しており、そこに生徒も魅力を感じているように思う。引き続き勝間田高校との取組を継続し、花開くよう今後も協力していく。

●勝間田高校にお願いしたいことは、安全安心な居場所であることと、魅力の発信である。

中学校で様々な課題を持った生徒がいるが、入学後、手厚く指導していただいている。勝間田高校を選ぶ理由は、落ち着いた環境で安心して3年間過ごせることと、様々な系列があり、普通科で学べないことが学べることである。

生徒会サミットで中学生と勝間田高校生とが交流する機会があるが、高校生になり生き生きと活躍している姿を見ることがある。同じ町内にある中学校と高校とで連携・交流していければ、高校生の姿を見て中学生も未来予想図が描けると思う。

第2回 令和5年11月28日（火）13:30～16:00

【主な内容】

○授業参観及び施設見学

○報告

（1）学校経営・組織編成に関する事項

（2）予算執行に関する事項

（3）その他関連する事項

（4）地域協働活動コーディネーター活動報告

○協議（グループ協議と共有）

「勝間田高校のさらなる魅力化・教育の充実について」

<委員からの意見等>

●さらなる魅力化推進で勝央町と勝間田高校、そしてしょうおう志援協会とで三者間協定を締結した。勝間田高校の魅力化推進のために月1回話し合いを重ねている。

魅力発信として、地域協働活動コーディネーターの3年間の取組は大きい。地域協働活動コーディネーター配置のための予算が来年度なくなるのは惜しい。必要だということを岡山県に強く訴えたい。（学校の魅力や教育活動を）「伝える」ということは大事である。

支援が必要な生徒に先生方の負担がいつている。その上さらに広報を教員が担うのは負担が大きい。現在、地域協働活動コーディネーターをしている方との関わりがなくなるのはもったいない。まだ必要だと思うので、要望してほしい。

●現在の地域協働活動コーディネーターの活動がゼロになると、勝間田高校にとって大きなマ

イナスになる。(情報発信は)生徒募集だけでなく、在校生の有用感アップにもつながっている。勝間田高校の教育の強みとして配置の要望をお願いしたい。

第3回 令和5年 2月27日(火) 13:30~16:00

【主な内容】

○令和5年度 学校運営に関する評価

(1) 教育活動報告

(2) 学校評価

○令和6年度に向けた学校運営基本方針協議

(1) 令和6年度学校経営計画書

(2) 令和6年度主要事業予算

(3) 令和7年度入学生教育課程

○高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業について

<委員からの意見等>

●子どもは少し不登校気味だったが先生方の指導のおかげで無事卒業を迎えることができた。手厚く指導をしていただいた。2年前のこの会で進路変更する生徒を減らして欲しいとお願ひしたが、努めていただき減少をしてきた。

●勝央町と学校の距離が近くなり、お互い力を合わせていて成果が生まれている。ありがたいし感激している。地域の中の学校として、地域から求められること、地域のために高校ができることがあるのは、町長や町民のご理解のおかげである。

高校に求めることは、5つのコースの進路状況がそれぞれ専門の分野にどれだけ進んでいるのかを1つの指標として調べてほしい。

●勝央町の地域おこし協力隊として6年前に帰ってきた。今は勝間田高校の地域協働活動コーディネーターという立場で、勝央町のよさを実感し、勝央町もよくなっていると感じる。勝央町と学校と関わり、視野が広がった。自分のスキルを生かし、よりよくしていきたい。

●三者協定を基にしてリブランディング会議を毎月開催している。それぞれのノウハウを生かして、高校生のためにできることはどんなことがあるかを考えている。

生徒の自己肯定感を高めることは大切である。教員からの一言やいろいろな人からの言葉は高校生にとって大事だと思う。

岡山県が同窓会に助成金を出す事業を始めるという話が出ている。勝央町は先駆けて補助金を出す取り組みをしている。私自身、同窓会をやって、地元に残っている人が多いことを知り、頑張っていこうかと思えた経験がある。勝間田高校の卒業生も大きくなって同窓会をして、学生時代に一緒に学んだ仲間と地域のために頑張っていく、そんなサイクルができればいいと思う。

●学校運営協議会に参加し、勝間田高校の良さを知ることができた。コースが5つあることは魅力である。ここで勉強したら世の中のためになる職に就ける、ということを伝えていければよいのでは。また、楽しんで勉強できる生徒が増えればよい。アイデアがあれば提供していきたい。

●勝間田高校の生徒とふれ合いたいと思い、勝間田駅に出向いて話をするところがある。素朴で駅にいる様子も落ち着いている。地元の評議委員もしている。(地元に住む者として)「安全・安心に過ごす」ために、取り巻く環境について生徒にも情報を伝えたい。

●農協は直接的にはアグリ魅力化プロジェクトとのつながりがある。学校経営計画書の学校内外の環境分析で、内部環境の弱みとして「自己肯定感が低い生徒が多い。」とあったが、アグリ魅力化プロジェクトで活動している生徒は積極的で、小学生に話しかけたり教えたりしている。「合同課題研究発表会・総合的な探究の時間成果発表会」も見させてもらったが、発表している生徒はハキハキ発表している。将来に役立つと思うので、こういった経験をこれからも生徒にさせて欲しい。令和6年度も協力・貢献していきたいと考えている。

●農業者のつどいでは、勝間田高校園芸系列の生徒がよい発表をしてくれた。勝英地域は、ア

スパラと黒大豆の生産が県下一である。勝央町のブドウのハウス栽培も高い評価を受けている。勝間田高校と協力し、PR活動ができたと思う。

●勝央町教育委員会でも自己肯定感をあげる目的で活動をしている。（最近の子どもたちは）自分がやったことが認められるとか、「ありがとう」という言葉を受ける機会が少ない。

中学校まで不登校の生徒が（勝間田高校で学ぶことで）救われている。勝間田高校でさまざまな経験をし、発表などをし、表彰もされるなどして、生徒たちは自信を持って社会に出ている。感謝している。「勝間田高校に入れてよかった」と言える学校であってほしい。

子どもが夢を持つ講演を、小学校で行ってもらった。視点を変えると農業にも魅力があることを気づくのでは。

アグリ魅力化プロジェクトでは子どもも高校生も笑顔で過ごしている。清風祭文化の部に行ったが、あいさつをするとあいさつを返してくれる。こういったことが信頼につながる。「子どもを行かせたい高校へ」になっていくと思う。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

1 学力向上

- ・家庭での学習を推進し、生徒の自主的・主体的な学習への取組を研究、実践。
- ・学び合い、ユニバーサルデザインによる授業やソーシャルスキル教育の実践。
- ・1人1台端末を活用した学習活動の充実。
- ・社会人講師等の地域人材を活用した教育の充実。

2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」の深化、基本的生活習慣と安全な生活の確立。
- ・生徒会活動と部活動の充実。
- ・交通安全の徹底。
- ・校内美化、校外清掃活動の推進。
- ・自己の健康への関心と健康意識の向上。

3 進路実現

- ・生徒が主体的に進路決定できる力の育成。
- ・キャリア教育の充実・学校生活の充実。

4 情報発信・広報

- ・教育活動の見える化。
- ・勝央町・しょうおう志援協会との三者協定の充実と地域活動の充実
- ・地域協働活動コーディネーターとの連携。地域人材の活用。
- ・オープンスクール・中高連絡会・中学校での説明会等での中学生とその保護者への情報発信。
- ・勝央町の広報誌、マスコミ、SNS等を活用した情報発信。